

「サプライチェーンCSR行動指針」 の改定について

一般社団法人日本貿易会 CSR研究会座長
三菱商事株式会社 環境・CSR推進部 部長代行

つるみ だいすけ
鶴見 大輔



日本貿易会は、2008年に制定しました「サプライチェーンCSR行動指針」を改定することにしたので、ご案内いたします。

「サプライチェーンCSR行動指針」は、サプライチェーンマネジメントにCSRへの取り組みが強く求められる状況を踏まえ、商社行動基準の精神にのっとり2008年に法的拘束力のないガイドラインとして制定されました。

その後、企業活動に対する社会からの要請が変化し、2011年には、サプライチェーン上の全てのステークホルダーを対象に、企業の人権尊重を要請する「ビジネスと人権に関する指導原則」が国連において採択されました。また、企業・組織においても、その活動が社会や環境に及ぼす影響について、その企業・組織が責任を負うという考え方も浸透してきております。

このような状況を踏まえ、当会では2014年度よりCSR研究会で検討を開始し、既存

の行動指針の改定案をまとめ、2015年11月18日の常任理事会にて承認されました。

行動指針の内容は、「人権・労働」「社会的責任」「環境」「公正取引・倫理」「情報開示」の五つに大別できますが、児童労働の禁止等「人権・労働」に係る項目や、地球温暖化や生物多様性などの「環境」に係る項目などについては、既存条項を明確な表現にすることを趣旨として整理しました。

今般、法人正会員各社代表者宛てに書面にて本指針を通知、周知徹底を要請するとともに、プレスリリースならびに日本貿易会のホームページへの掲載を行いました。

日本貿易会は引き続き、商社活動におけるサプライチェーンCSRの重要性を認識し、単なる法令順守にとどまらない、社会規範に沿った、健全で、責任ある企業活動を推進していきたいと考えております。

JF
TC

サプライチェーンCSR行動指針

一般社団法人 日本貿易会

2008年 11月19日 制定

2012年 4月 1日 一般社団法人へ移行

2015年 11月18日 改定

<まえがき>

日本貿易会は、経済のグローバル化、市民社会の成熟化を背景に、企業の社会的責任（CSR）に係わる関心の高まりを受け、1973年に「総合商社行動基準」を策定、その後の改定を経て、2005年に「商社行動基準」を制定した。また、本行動基準の中に“経営の理念と姿勢”として位置づけた地球環境問題への取組みとして2002年に「環境行動基準」を制定、更に、サプライチェーンマネジメントにCSRへの取組みを強く求められる状況を踏まえ、商社行動基準の精神に則った「サプライチェーンCSR行動指針」を、会員各社のためのCSR行動ガイドラインとして2008年に制定した。

その後、企業活動に対する社会からの要請も変化してきており、人権については、サプライチェーンに係わる全てのステークホルダーを対象とした企業の人権尊重の責任に関するガイダンス「ビジネスと人権に関する指導原則」が2011年に国連で採択され、また、企業を含む全ての組織の活動は社会及び環境に及ぼす影響に対して責任を負うとする国際標準化機構制定ガイダンス規格「ISO 26000」が、国内ではJIS化手続きを経て、2012年にガイドラインとして提唱された。

こうした状況を踏まえ、「サプライチェーンCSR行動指針」（ガイドライン）を見直し、既存条項を明確な表現に改定する。

<本文>

我々は、全てのステークホルダーの人権を尊重し、サプライヤーをはじめとする取引先に対して、以下に掲げる項目の理解と実践を求め、あらゆる取引先と共にCSR活動を推進していきます。

1. 人権を尊重し、差別・ハラスメント・虐待・児童労働などの非人道的な扱いを行わない。
2. 従業員の団結権及び団体交渉権を尊重する。
3. 従業員に対する強制労働・不当な低賃金労働を防止する。
4. 従業員に対して安全、衛生的でかつ健康的な労働環境を提供し、災害・事故などの緊急時の対応策を準備し、周知に努める。
5. 生物多様性及び地球温暖化への対応等をととして、環境問題の未然防止に努める。
6. 内外の法令を遵守し、公正な取引を維持し、腐敗防止に努める。
7. 商品やサービスの品質・安全性の維持・確保に努める。
8. 上記に関する情報の適時・適切な開示を行う。

以 上

Supply Chain CSR Action Guidelines

Japan Foreign Trade Council, Inc.

Enacted: November 19, 2008

Revised: November 18, 2015

<Foreword>

In response to increasing interest in Corporate Social Responsibility (CSR) against the background of the globalization of the economy and the maturation of civil society, the Japan Foreign Trade Council, Inc. (JFTC) established the Code of Conduct for General Trading Companies in 1973, and through subsequent revisions formulated the Shosha's Corporate Code of Conduct in 2005. In 2002, the Environmental Code of Conduct was formulated to deal with the global environmental problems addressed under "Management Philosophy" in the Shosha's Corporate Code of Conduct. Following this, in 2008 the JFTC prepared the Supply Chain CSR Action Guidelines for member companies in line with the spirit of the Shosha's Corporate Code of Conduct, considering the strong demands to address CSR in supply chain management.

In 2011, as the requirements placed by society on corporate activities continued to change, the United Nations adopted the Guiding Principles on Business and Human Rights, setting out the duty of companies to respect the human rights of all stakeholders in the supply chain. Further to this, the International Organization for Standardization (ISO) established ISO 26000 as a guidance standard that calls on companies and all other organizations to take responsibility for the impact their activities have on society and the environment. This passed through Japanese Industrial Standards (JIS) procedures and in 2012 was proposed as a guideline in Japan.

In view of these circumstances, we have reexamined the Supply Chain CSR Action Guidelines, and have revised the items to make the wording clearer as below.

<Supply Chain CSR Action Guidelines>

We will respect the human rights of all stakeholders, will call on our suppliers and other business partners to understand and implement the following items, and will work to promote CSR activities with all our business partners.

1. To respect human rights, and avoid inhumane treatment including discrimination, harassment, cruelty, and child labor.
2. To respect employees' right to organize and right of collective bargaining.
3. To prevent forced labor and unfair low-wage labor.
4. To provide employees with a safe, sanitary, and healthy work environment, to prepare emergency countermeasures for dealing with disasters and accidents, and to publicize these countermeasures so that they are known by all concerned parties.
5. To work to prevent environmental problems through measures on biodiversity and global warming.
6. To observe all domestic and foreign laws, to engage in fair business transactions, and to strive to prevent corruption.
7. To work to ensure and maintain the quality and safety of products and services.
8. To disclose information regarding the above items in a timely and appropriate manner.